

大野市こども・若者計画骨子【案】 作成のための整理資料

1

こどもから
若者まで
共通した
支援

(1) こども・若者の健康と安心安全の確保

ア こども・若者の健康増進と相談体制の充実 イ 安心と安全が実感できる見守り

(2) 困難を有する子供・若者やその家族の支援

ア 児童虐待と自殺の予防

(3) こども・若者の成長のための社会環境の整備

ア こども・若者の居場所づくり

(4) 若者の定住と就業支援

ア 若者の移住・定住促進と雇用環境の確保

(5) 若者の交流・活動の促進

ア 若者の交流促進

貧困対策(就労・自立支援等)

2

結婚支援

(1) 結婚を希望する若者への支援

ア 結婚の後押し

(2) 地域全体で結婚を応援するまちづくり

ア みんなができる結婚応援

(3) 若者の出会いの創出

ア マッチングアプリなどによる出会いの創出

3

妊娠
出産支援

(1) 妊娠を希望するカップルへの支援

ア 妊娠に向けた支援

(2) 妊娠前から育児期までの切れ目のない支援

ア 伴走型の相談支援と経済的支援

(3) 母子保健対策の充実

ア 妊産婦の健康と産後ケアの充実

貧困対策(特定妊婦への支援)

4

乳・幼児期
の支援

(1) 乳幼児期の健康増進と相談支援の充実

ア 乳幼児の健康と相談支援体制の充実

(2) 教育・保育サービスの提供

ア 教育・保育サービス質の確保と幼児教育の充実

(3) 地域における子育て支援

ア 地域で支える子育て支援の充実

貧困対策(養育力向上支援)

5

学童期
の支援

(1) 児童・生徒の生きる力の育成に向けた教育環境の向上

ア 安全で豊かな学びと育ちの推進

(2) 不登校、いじめ問題の未然防止、早期発見・早期対応

ア いじめ・不登校の未然防止と組織的な対応

(3) 放課後の居場所づくり

ア 安全で安心な居場所づくり

貧困対策(就学支援)

6

保護者へ
の支援

(1) 経済的・精神的負担の軽減

ア 経済的負担の軽減 イ 精神的負担の軽減

(2) 子育てと仕事の両立支援

ア 働きながら子育てしやすい環境の整備

(3) 共家事・共育児、男女共同参画の推進

ア 女性が住みたくするまちづくり

貧困対策(保護者の自立支援)

7

配慮を必要
とする支援

(1) 障害児(気掛かり児童・生徒)に対する支援

ア 障害のあるこどもへの適切な支援

(2) ひとり親に対する支援

ア ひとり親家庭への支援

(3) 生活困窮者(世帯)に対する支援

ア こどもの貧困対策

施策の方向性

(1) こども・若者の健康と安心安全の確保

ニーズ（現状）

- 小児科の数も少なく不安。現在、かかりつけの病院の医師も高齢で今後が心配である。
- 日曜日の休日急患センターで小児科の受診ができることは安心である。
- 子供は色々な病気になるので、おすすめの医者それぞれ教えてほしい。病院選びが大変である。
- 子どもが自分で身を守らなければいけない時があることを想定した防犯や性への学びの場をしっかりと持つべきだと思う。

行政としての捉え方

- 小児科だけでなく医療体制について、医療機関を増やすことは現実的ではない。
- 現在の医療体制（休日急患診療所を含め）を維持するための市内医療機関と市外医療機関との連携が重要である。併せて、連携を図る場合に移動時間の短縮（道路整備）が重要となる。
- 医療機関を選択するための情報が欲しいとのニーズがある。細やかな情報発信が必要である。
- 疾病だけでなく、心身の健康や性に関する正しい知識の習得と相談支援も必要である。
- こども・若者の安全を守り安心が得られるための取組み（交通安全、意識啓発、地域の見守り）も必要である。

行政として考える課題

- 産科・小児医療の体制を確保するための連携が重要になるが、連携が図られることで、市民に対し「どのような情報を周知し」「どう行動してもらう」かを明確にする必要がある。
- 上記の明確にした情報を効果的に発信する手法を検討する必要がある。
- 市外医療機関での受診に向けては国道158号境寺・計石バイパスの早期供用開始が求められる。
- 飲酒や喫煙、薬物について正しい知識を身につけ、健康的な生活管理の形成や心身の健康を守るための意識啓発が求められる。「こどもに対してはどこで?」「若者に対してはどこで?」
- 思春期は心とからだの急激な変化により、不安定な状況になりやすい時期であり、うつ病などの精神疾患の発症期でもあることから、思春期の保健対策の充実が求められる。
- インターネット環境に関する防犯対策については、スマートフォンやインターネット、特にSNSについて、健全な利用方法を親子で一緒に学び、トラブルや危険に巻き込まれないための取組みが求められる。（学校で、家庭で、社会で）
- こどもや若者が犯罪、事故、災害等から自らと他者の安全を守ることができるよう、体験的な学びを含め、発達の程度に応じた安全教育の推進が求められる。
- 核家族化や地域のつながりの希薄化が進む中で、地域で見守り、支え合うことが求められる。

施策の方向性

(2) 困難を有する子供・若者やその家族への支援

ニーズ（現状）

- ニーズ調査において、子育て支援策に期待すること、重要なこととしての回答して「児童虐待やいじめなどの対策の充実」との声が多くなっている。（トップ5）
- 田舎ならではの環境で生きる力を身につけて、自由な発想、それをアウトプットできる力をつけてほしい。

行政としての捉え方

- こどもや若者を自殺させてはならない。
- 児童虐待は、こどもの心身に深い傷を残し、成長した後においても様々な生きづらさにつながるものであるので、もれなく対応する必要がある。
- 児童虐待やいじめだけでなく、さまざまな問題となる事象の背景には「貧困」「疾病」「障害」などの様々な要因（困難）がある。包括的な相談支援が必要である。

行政として考える課題

- 誰もが自殺に追い込まれることのないよう、SOSの出し方や心の危機に陥った友人等からのSOSの受け止め方について学ぶことが重要である。
- 児童虐待に関し、こどもや保護者、家庭全体の困り感や不安に寄り添った、包括的な対応が求められる。
- 児童虐待を早期発見できる関係機関（学校や認定こども園など）が同じ組織（教育委員会）の中であり、連携は図られている。この連携を持続させながらも、連携が形骸化されない取組みが必要である。
- 小中学生1人1台に配布されているタブレットを活用することで自殺に関するSOSなどをいち早くキャッチする取組みが必要である。

施策の方向性

(3) こども・若者の成長のための社会環境の整備

ニーズ（現状）

- 地域ぐるみで子育てをするような行事等が増えると、子育てしやすい環境が自然と育つのではないか。（地域コミュニティの復活）
- 小学校低学年における放課後の過ごし方の希望については、自宅や祖父母宅で過ごしてほしいという意見がニーズ調査において合計41%、児童センターまたは放課後児童クラブ、放課後子ども教室で過ごしてほしいという意見は合計42%とほぼ同じ割合となっている。
- 高学年における放課後の過ごし方の希望については、自宅や祖父母宅で過ごしてほしいという意見がニーズ調査において合計48%、児童センターまたは放課後児童クラブ、放課後子ども教室で過ごしてほしいという意見は合計26%となっている。
- 放課後児童クラブは利用したい人はだれでも利用できるようにしてほしい。
- 放課後児童クラブに利用要件があるが、無料だから利用要件を守らない家庭がある。
- 大野市には放課後等デイサービスの事業所が少ないように感じる。放課後児童クラブに行くのが困難なこどもの放課後、夏休み等の長期休みに利用できる施設があるとありがたい。
- 大野市の公共の場所で中高生が放課後に勉強できるスペースがあるのはとてもありがたい。ぜひ、続けてほしい。

行政としての捉え方

- 子育て中の親子を孤立させないためにも、行政だけでなく地域における見守りも必要である。
- 放課後児童クラブの要件については、施設の規模や指導員などハードとソフトの両面で制約があるため、現時点で児童クラブの預かりの要件を撤廃することは難しい。学童保育をサービスとして捉えるのであれば、有料化の検討も必要である。
- しかしながら、国の「放課後児童対策パッケージ」において全てのこどもにとって安全・安心な居場所を確保するために、放課後児童クラブと放課後子供教室の校内交流型に留まらず、多様な居場所づくりの推進や質の向上が求められているので、この点については、十分な検討を行い、計画の中間見直し（9年度）までに方向性を決定する必要がある。
- 障がいのあるこどもの居場所（預かり型の放課後等デイサービス）の事業所が少なく、預けられない家庭がある。
- 中高生の放課後の居場所として、公共施設（市庁舎市民ホール、結とぴあ）は有効的である。
- 屋内型こどもの遊び場の円滑な施設運営と何度も利用してもらえる仕掛けが必要である。

行政として考える課題

- 地域における「こどもの見守り」が必要であるが、まず、地域が「こどもの見守りの必要性」を地域課題として捉える意識醸成が必要である。
- 当面の間、市街地における「放課後児童クラブ」と市街地郊外における「放課後子ども教室」の現在の制度を継続するが、安全性の向上と人材確保、サービスの質の向上を図る必要がある。
- 今後の放課後児童対策の在り方の方向性を打ち出す必要がある。
- 障がいのあるこどもの居場所（預かり型の放課後等デイサービス）の受け皿の確保（人材確保を含む）と日中一時支援事業により日常的に介護している家族の一時的な負担の軽減が必要である。
- 障がいのある子どもがサービスを活用することで、障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが共に成長できる社会づくりが必要である。

施策の方向性

(4) 若者の定住と就業支援

ニーズ（現状）

- 賃貸住宅はファミリー向けがほとんどで、ひとり暮らし用の賃貸住宅が少ない
- 地元で就職を希望するが職種が限られており、自分の希望する職種に就けないので、市外で就職している。
- 地元企業の情報が発信されているようであるが、十分に情報が得られていない。企業の雰囲気、どのような人が働いているといった情報も欲しい。
- 実際に企業説明会のような機会に、人事担当の方と話しをして、その人に惹かれて就職した。情報だけでは伝わらない部分もある。情報だけだと良い面があっても、逆に悪い情報ばかりが広く伝わってしまう。

行政としての捉え方

- 若者定住に係る住宅施策については、需要と供給のバランスを考えるとひとり暮らし用の賃貸住宅の提供にシフトすることは難しいと判断する。
- 地元では若者が希望する職種に付けないとのことだが、市内の企業の情報がしっかりと伝わった上での判断であるかどうかを見極めなければならない。市内企業の情報をしっかりと伝えきることが課題かもしれない。
- 高学歴になればなるほど市外で就職する傾向が強くなる。
- 企業情報も仕事の内容だけでなく、企業の雰囲気やアピールポイント、働く人など、『良い情報』を積極的に出す必要がある。

行政として考える課題

- 若者が定住またはUターンに向け、①経済的な支援、②就業機会の創出、③地域の魅力発信のどの支援に力点を置くべきか、また、支援に不足がないかを十分に検証する必要がある。
- 地元での就労率を向上させるためのマッチングの向上が求められる。
- 若者が働きたくなるような企業の誘致が求められる。
- 就労のひとつの形態として創業・起業の支援を継続することが求められる

施策の方向性

(5) 若者の交流・活動の促進

ニーズ（現状）

- 仕事から帰宅し、友達と語り合おうとしたときに開いている店舗が限られており、気軽に集える場所がない。
- 今は、イベントとかが無いと出会いが無い状態であるが、イベントに参加する若者が限られており、いつも同じメンバーのように感じる。
- 同じ趣味、目的を持った集まりがいい。

行政としての捉え方

- 同じ趣味や同じ目的を持った集まりの方が交流促進につながると思うが、行政として特定の分野だけの集まりにしてしまうことに抵抗がある。特定の分野に絞り込めない。
- 若者のための若者による気軽に集まれる場所が必要になっている。気軽に集える場所があることで自然な出会い（交友範囲の拡大）につながることを期待したい。
- 公民館や生涯学習センター、スポーツ関係の講座や教室が若者の活動の場となるためには、若者が参加したくなる内容にする必要があるが、人集めに苦労しそう。
- 公共施設を気軽に集える場にしても、おしゃれじゃないので利用は見込めない。
- 単発な取組みでなく、「定期的にこの場所に行くと若者向けのおもしろいことやってる」といったことを継続していくことやSNSを上手に活用するなど、若者にとって「おもしろい」「メリットのある」場所になるのではないかな。

行政として考える課題

- 若者の地域の中での交流促進は、地域運営の人材の確保や持続化につながることから、「若者の活動促進」を地域課題として捉える意識醸成が必要である。
- 若者自らの企画で、若者が自発的に集い、自然と出会える「場所」「場所の運営」「内容」のスタイルを確立することで、活動・出会いの場づくりをスタートさせたい。

施策の方向性

(1) 結婚を希望する若者への支援

ニーズ（現状）

- イベントでなくても、気軽に若者が集える場所があれば、勝手に出会いが生まれるのではないかな。
- タイムパフォーマンスを考えると、AIによるマッチングアプリの活用も有効である。
- 縁結びさんに支援してもらえるのはありがたいが、若手の縁結びさんに相談に乗ってもらいたいと思う。

行政としての捉え方

- 気軽に集える場所≠恋愛に発展する場所。恋愛に発展させるための手助けが必要でないかな。
- 結婚を希望しない若者もあり、結婚観が多様化する中、結婚の押し付けはできない。
- 効率的で、今や自然な出会いのひとつであるAIマッチングシステムの活用促進は継続する必要がある。
- 結婚へのお節介はハラスメントにつながる要素を持つため、躊躇しがちであるが、実はお節介を希望する若者もいるのでないかな。お節介を「希望する若者」と「希望しない若者」を事前にしっかりと把握した上で結婚支援するとよい。
- お節介の方法については、何が効果的なのかを十分に検討する必要があるが、お節介する人も若者の先輩から若者の親世代まで。

行政として考える課題

- 結婚に関する考え方が多様化してきており、結婚を希望する若者、それぞれにあった結婚に向けての支援が必要になっています。
- 支援に方向性（経済的支援、住宅支援、就労支援、カウンセリング、お節介）を十分に検証し、行政として取り組むべき支援を取捨選択する。
- 結婚を希望し、支援を必要とする若者を抽出した上で、結婚に関する情報をプッシュ型で発信する。

施策の方向性

(2) 地域全体で結婚を応援するまちづくり

ニーズ（現状）

○結婚を機に男性の住む市町に転出する女性が多い。女性が結婚後も働きやすい環境も重要であるが、男性が働きやすい環境の企業があれば、結婚を機に男性が大野市へ転入してもらえるのではないかな。

行政としての捉え方

- 必ずしも、男性の住む市町に転出とは限らないのではないかな。結婚後の夫婦生活（生活・仕事・将来出産・育児）を見通した場合、どちらの方が居住しやすいか、メリットがあるかで判断するのでないかな。
- 結婚支援に関する情報と子育て支援に関する情報をセットにし、市全体で支援していることを若者にしっかりと伝える必要がある。
- 結婚支援は、企業の担い手の確保や経済活動をする消費者の確保につながるなど、メリットが大きいことから、企業としての取組みに期待したい。

行政として考える課題

- 地域全体で結婚を応援していると言える事項を漏れなく洗い出し、分野別に情報発信を行う。（経済支援、就労環境、道路整備、共家事・共育児の推進、妊娠・出産支援）
- 企業の結婚支援に関する具体的な取組みを促す。

施策の方向性

(3) 若者の出会いの創出

ニーズ（現状）

- タイムパフォーマンスを考えると、AIによるマッチングアプリの活用も有効である。
- 縁結びさんに支援してもらえるのはありがたいが、若手の縁結びさんに相談に乗ってもらいたいと思う。

行政としての捉え方

- 気軽に集える場所≠恋愛に発展する場所。恋愛に発展させるための手助けが必要でないか。
- 効率的で、今や自然な出会いのひとつであるAIマッチングシステムの活用促進は継続する必要がある。

行政として考える課題

- 県が運営するAIマッチングアプリの活用を促進する。
- 若者の地域の縁結びの活用を促進する。

施策の方向性

(1) 妊娠を希望するカップルへの支援

ニーズ（現状）

○妊娠を希望するが、晩婚化による（第2子以降の）妊娠を諦めるケースがある。

行政としての捉え方

- 産前・産後の正しい情報を正確に理解し、将来が正しく見通せるようにする必要がある。
- 不妊に関わる不安や悩み、経済的な負担についてもしっかりと情報発信する必要がある。
- 早婚を支援することは、ひいては妊娠の希望を叶えることにつながる。

行政として考える課題

- 妊娠、出産に関する正しい情報をしっかりと伝え、カップルの自己選択、自己決定により妊娠につながる支援を行う。
- 不妊はセンシティブな事柄ではあるが、必要な情報を必要なタイミングで得られるよう、積極的な情報発信を行う。

施策の方向性

(2) 妊娠期から育児期までの切れ目ない支援

ニーズ（現状）

○こども家庭センターによる伴走型支援により、問題（困難）を有する特定妊婦は少ないが、気がかりな母子（予期せぬ妊娠、精神的に不安定な妊婦、家庭の養育能力が高くない妊婦など）は一定数いる。

行政としての捉え方

- こども家庭センターにおける相談支援体制を維持し、早い段階で不安や困難に寄り添うことが重要である。
- 母子保健だけでなく、福祉と母子保健が連携し、包括的な支援が必要である。

行政として考える課題

- 産前・産後の正しい情報をしっかりと伝え、混乱せず、将来をしっかりと見通せる支援が必要である
- こども家庭センターにおいて、福祉と母子保健が連携し、産前産後から子育て期を通じた切れ目のない継続的な支援の提供が求められる。

施策の方向性

(3) 母子保健対策の充実

ニーズ（現状）

- 妊娠届出時のアンケートにより、現在の様子、健康状態、協力してもらえる人の有無、不安や悩みなどの状況把握を行うことで支援に関するニーズを把握している。

行政としての捉え方

- 母子保健は伴走型の相談支援が求められており、産前から産後に至るまでの期間を通して、支援の必要性を確認することが大切である。支援が必要と判断される場合は、母子保健だけでなく福祉の視点を入れた包括的な支援を行う必要がある。
- 支援を必要としないケースであっても、母子の孤立化や産後うつにならないようなケアが必要であるため、乳児健康診査、乳児家庭全戸訪問、育児相談会等の様々な機会を捉えて、継続した相談支援を行う必要がある。
- 母子保健法に規定する「保健指導」「健康診査」「妊産婦の訪問指導」は行っているが、次に記載の「産後ケア事業」は十分でない。
 - (1) 「宿泊型」 病院、助産所等の空きベッドを活用した宿泊による休養
 - (2) 「デイサービス型」 個別・集団で日中に来所した利用者に対するデイサービス
 - (3) 「アウトリーチ型」 利用者の自宅に赴き実施
- 母乳に関する悩みが多いことに対応している母乳外来（助産師訪問）の助成を行っており、産後ケア事業を補完（充実）する取組みであり、継続した支援を行う必要がある。

行政として考える課題

- 母子の孤立化や産後うつ予防のため、産婦のニーズに応じた産後ケアを受けられるソフト面での環境の整備が求められる。
- 里帰り出産を行う妊産婦への支援や産後ケア事業の提供体制の確保や養育者のメンタルヘルスに係る取組を進めるなど、産前産後の支援の充実と体制強化が求められる。

施策の方向性

(1) 乳幼児期の健康増進と相談支援の充実

ニーズ（現状）

- 乳児健診による疾病の早期発見と早期治療の推進、赤ちゃん訪問や育児相談会などによる発育や発達、子育てに関する相談支援を行っている。

行政としての捉え方

- 母子保健は伴走型の相談支援が求められており、産前から産後に至るまでの期間を通して、支援の必要性を確認することが大切である。支援が必要と判断される場合は、母子保健だけでなく福祉の視点を入れた包括的な支援を行う必要がある。
- 支援を必要としないケースであっても、母子の孤立化や産後うつにならないようなケアが必要であるため、乳児健康診査、乳児家庭全戸訪問、育児相談会等の様々な機会を捉えて、継続した相談支援を行う必要がある。

行政として考える課題

- 乳児健診の受診率100%を目指した取り組みが必要である。
- 本市の乳幼児の虫歯保有率は県内でも高くなっており、乳歯の虫歯は永久歯に悪影響を及ぼすため、乳幼児期からの虫歯予防対策が必要である。
- 聴覚障害は、早期に発見し早期に治療や療育を開始することで、音声言語発達等への影響を最小限に抑えられることから、すべての新生児を対象として新生児聴覚検査が実施されるよう、受診勧奨に努める必要がある。
- 子育てに困難を抱え、支援を必要とする家庭をとりこぼさないため、専門職の確保と質の向上が求められる。
- 食育を推進することで、子どもの健やかな心と身体の発達を促すことが求められる。

施策の方向性

(2) 教育・保育サービスの提供

ニーズ（現状）

- 育児休業中でも通常の保育時間で対応してもらいたい。
- 保育士さんが余裕をもって、子どもに対応できるよう、人や給料を充実してあげてほしい。
- 市外から大野へ来たが、保育の質や教員さんの子どもへの関わり方が市外より手厚いと感じている。

行政としての捉え方

- 教育・保育サービスを認定する上で、実際の就労時間等に基づき保育時間を認定するのが原則であり、原則を崩してしまうと、適正な教育・保育の給付自体ができなくなる。訪問型一時預かりや家事援助などといった他のサービスを利用してもらうことで対応したい。
- 保育人材の処遇改善や働く環境の改善については、保育人材の確保の観点から国、県、市が共通の問題意識を持っている。引き続き、保育人材の確保と働く環境の改善に努める。
- 国・県統一的な人材確保に加え、市独自の人材確保も展開することで他市町と差別化する必要がある。
- 少子化による定員の適正化などについては、法人の経営問題に関わることであるが、本計画期間中に法人（経営者）と実情に即した協議が必要である。

行政として考える課題

- 現在の教育・保育サービスを持続するためには、保育人材の確保が重要である。
- 適切で質の高い教育・保育を提供するために、関係機関と連携協力し、保育士の養成や確保、保育補助者による保育士支援を図る必要がある。
- 保育人材が不足する中、現在働いている保育士の離職防止のための雇用環境の整備や保育士の安定的・継続的確保、園の効率的な運営を図るためICT化を進める必要がある。
- 今後の出生数の減少に伴う入所児童数の減少を見込み、かつ、保育料の無償化の影響による低年齢児の増加などにも対応するため、民間認定こども園と協議しながら公立保育所の定員削減を検討する必要がある。

施策の方向性

(3) 地域における子育て支援

ニーズ（現状）

- 週に2～3回、地域子育て支援センターを利用しており、他のお母さんや保育士の方と情報交換できている。
- こどもの居場所づくりに関する活動に主任児童委員の協力が得られており、こどもなどにも好評を得ている

行政としての捉え方

- まず、市民に対して「地域における子育て支援」として何があるか、十分に伝わっているのか不安である。
- 地域における子育て支援の人材は足りているのか、育っているのか不安である。

行政として考える課題

- 地域における子育て支援（地域子育て支援事業）について、子育て世代や若者にしっかりと伝える（情報発信の強化）必要がある。
- 地域子育て支援事業のうち、子育て短期支援やすみずみ子育てサポート（一時預かり、家事援助）を利用し、レスパイトしながら子育てを楽しめる環境の整備が求められる。
- 地域における身近なおとなや若者など、ボランティアやピアサポートができる人材など多様な人材の発掘が求められる。
- 同じ子育て世帯同士のつながりを活用した助け合いの仕組みをつくることも重要である。

施策の方向性

(1) 児童・生徒の生きる力の育成に向けた教育環境の向上

ニーズ（現状）

- 子どもに関して教育相談をしても、話はしっかり聞いてもらえるが、結果として合理的配慮につながっていない。
- 教育だけでなく、友達関係や授業以外の事についての対処が苦手な方が多いように感じる。

行政としての捉え方

- 幼児期の育ちを学童期につなぐ、こどものための幼小接続が重要である。
- 多様な遊びや体験、集団生活を通してさまざまな学びを得て、他者との関り方を学び、人として生きる力や非認知能力を育てる必要がある。

行政として考える課題

- 幼小接続の推進が重要である。
- 確かな学力の向上を図っていくため教育委員会、学校、家庭、地域のさらなる連携が必要である。
- 学校再編など教育環境の変化に対応した教育環境の向上が求められる。

施策の方向性

(2) 不登校、いじめ問題の未然防止、早期発見・早期対応

ニーズ（現状）

- 不登校の子を見過ごさず、丁寧なサポートが必要である。
- 学校でいじめや生活の関する声掛けが必要である。
- 学校再編により学校が変更になることによるいじめが不安である。

行政としての捉え方

- 未然防止、初期対応、継続的支援が必要である。
- 困難な事例でも、教育委員会内の情報共有と連携を図り、手遅れになる前に専門家の協力を得て適切に対応しなければならない。

行政として考える課題

- 近年、家庭環境や学校、友人との関係、学校や集団への不適応を要因とする問題を抱える児童生徒が増加し、児童生徒が抱える問題は多様化しており、一人一人を大切にしたいきめ細かな支援が一層必要となっている。
- いじめや不登校は教職員と児童・生徒の日々に関りの中で早期に発見、初期対応されるものであるが、実際に対応する場合は専門家のサポートが必要になる。時と場合による適切な対応が必要になる。

施策の方向性

(3) 放課後の居場所づくり

ニーズ（現状）

- 市街地の児童の放課後の拠点である「放課後児童クラブ」と、市街地郊外の児童の拠点である「放課後子ども教室」において学童保育を実施している。
- 放課後児童クラブと放課後子ども教室の利用要件がことなることから、保護者の一部から不満の声が聞かれる。
- 昨今、保護者の働き方が変わり、休日も土日とは限らない。要件を緩和してもらえるとありがたい。
- 学校の体育館や公民館など、子どもが友だちと過ごせる場所を17時まで開放してほしい。近所で子どもが少ないため、近場で子どもが集まれる場所がほしい。

行政としての捉え方

- 放課後児童クラブの要件については、施設の規模や指導員の数などハードとソフトの両面で制約があるため、現時点で児童クラブの預かりの要件を撤廃することは難しい。学童保育をサービスとして捉えるのであれば、有料化の検討も必要である。
- しかしながら、国の「放課後児童対策パッケージ」において全てのこどもにとって安全・安心な居場所を確保するために、放課後児童クラブと放課後子供教室の校内交流型に留まらず、多様な居場所づくりの推進や質の向上が求められているので、この点については、十分な検討を行い、計画の中間見直し（9年度）までに方向性を決定する必要がある。

行政として考える課題

- 今後の放課後の学童保育の在り方の方向性を打ち出す必要がある。
- 市街地の児童の放課後の拠点である「放課後児童クラブ」と、市街地郊外の児童の拠点である「放課後子ども教室」の保育サービスに差があり、サービスの標準化が必要になっている。
- 児童が安全に過ごすため学校内での居場所づくりが求められている。

施策の方向性

(1) 経済的・精神的負担の軽減

ニーズ（現状）

- 就学前児童の保護者で、「子どもに関することで悩んでいること、気になること」で最も多い回答は「こどものしつけ」、次いで「こどもの心の様子」、次いで「食事や栄養」であった。
- 就学前児童の保護者で、「保護者に関することで悩んでいること、気になること」で最も多い回答は「ストレスなどから子どもにきつくあたってしまう」、次いで「仕事や自分のやりたいことに時間が十分取れない」、次いで「教育にかかる経済的な負担が大きい」であった。
- 就学児童の保護者で、「子どもに関することで悩んでいること、気になること」で最も多い回答は「こどもの心の様子」、次いで「こどものしつけ」、次いで「こどもの友だちづきあい」であった。
- 就学児童の保護者で、「保護者に関することで悩んでいること、気になること」で最も多い回答は「教育にかかる経済的な負担が大きい」、次いで「仕事や自分のやりたいことに時間が十分取れない」、次いで「ストレスなどから子どもにきつくあたってしまう」であった。

行政としての捉え方

- 就学前児童の保護者の「子どもに関する悩み」で最も多かった回答は「こどものしつけ」であり、「保護者に関する悩み」で最も多かった回答の「「ストレスなどから子どもにきつくあたってしまう」とをあわせると、その本質は「こどもへの関わり方」について悩んでいるものと推測する。
- 就学児童の保護者の「保護者に関する悩み」のトップ3の割合に大きな差は無く、「お金」「自分の時間」「ストレス」が同程度である。保護者によって捉え方が分かれるものの、こどもの成長とともに教育費が増加することに対する負担感や悩みがあるものと思われる。
- 経済的負担の軽減については、子ども医療費の無料化、第2子以降保育料無料化、第3子以降小中学校給食費無料化に取り組んでおり、高い水準で経済的負担の軽減に取り組んでいると判断する。さらに無料化を拡充するに当たっては、行政負担と考えると他のサービスを削減することにつながる恐れがある。
- 保護者の悩みへの対応、精神的負担の軽減など、将来の子育てを見通せるための支援が必要で、こどもにとっての幸せにつながるものと思われる。

行政として考える課題

- 女性に掛かる家事や育児の負担は大きくなっており、女性の精神的負担感の軽減に向けては、「共家事」「共育児」の強力な推進が求められる。
- 子どもの医療費にかかる負担の軽減や児童手当の給付など、現在の経済的支援の維持・継続していく必要がある。
- 「こどもまんなか」「こどもとともに」の姿勢で、将来に向かっての明るい見通しができ、こども、保護者がウェルビーイングな状態になるためにサービスの提供、相談支援、情報発信を行っていく必要がある。

施策の方向性

(2) 子育てと仕事の両立支援

ニーズ（現状）

- 就学前児童の保護者で、子育てと仕事の両立に関する課題の問いに対し、家事、育児の負担が大きいとの回答が最も多く、次いでこどもと過ごす時間が短い、病児保育の施設不足の順になっている。
- 子育てと仕事の両立を支援する既存制度の利用実績は低いですが、今後、制度を利用したいとする希望は多い。
- ワークライフバランスへの支援や児童センター、こども食堂のような共働きがしやすい施設の充実が求められている。
- 子育て世代への理解があまり職場で得られず、辛い思いをしている方は多い。企業全体で子育て中でも働きやすいように、そして今後もこどもを育てながら働きたいと思える職場環境づくりをしてほしい。
- 病児保育の充実と利便性の向上を求める声が多い。
- 親が就業中などで送迎できない時に、子どもだけでも利用できるような交通機関をつくってほしい。

行政としての捉え方

- 子育てと仕事の両立支援は、企業の担い手の確保や経済活動をする消費者の確保につながるなど、メリットが大きいことから、企業としての取組みに期待したい。
- 子育て世代だけでなく、社会全体が「子育てと仕事の両立を支援」するための既存制度に対する理解を深める必要がある。
- 市内病児保育施設の利用は低調であるが、ニーズが無いわけなく、保護者にとって利用しにくい状況にあると推測する。
- 市内の病児保育施設、市外の病児保育施設、どちらを利用するかは保護者の就労環境による部分もあるので、市としては、「自己選択」「自己決定」してもらえよう、受け皿の確保とサービスの向上にむけた取組みが必要である。

行政として考える課題

- 男性の家事・子育てへの参画を促進し、女性に一方的に負担が偏る状況を解消し、女性と男性がともに子育てと仕事を両立できるよう環境整備が求められている。
- 事業主や職場の理解と協力のもと、子育てしやすい職場環境づくりを浸透し、定着させることが必要である。
- 病児保育を担う受け皿の維持と利便性の向上が求められている。

施策の方向性

(3) 共家事・共育児、男女共同参画の推進

ニーズ（現状）

- 就学前児童の保護者で、子育てと仕事の両立の課題で最も多い回答は、「家事・育児の負担が大きい」である。
- 母親の家事負担を減らし、精神的、身体的余裕をつくってほしい。
- 男性（高齢者、現役世代）も含め、全ての市民で子育てに関わるんだという空気がほしい。
- 家事代行もしくは家事の間、子どもをみていてもらえるようなサポートがほしい。

行政としての捉え方

- 家事や育児に対する負担が女性に一方的に偏る現状を打破するための効果的な取り組みを検討する必要がある。男性に対してどう動機付けていくか。

行政として考える課題

- 様々な世代における固定的な性別役割分担意識の解消に資する取り組みに関する啓発や情報発信を進める必要がある。
- 家庭内において育児負担が女性に集中している現状を変え、夫婦が相互に協力しながら子育てし、それを職場が応援し、地域社会全体で支援する社会をつくるため、共働き・共育てを推進する必要がある。

施策の方向性

(1) 障害児(気掛かり児童・生徒)に対する支援

ニーズ（現状）

- 臨床心理士など専門職を各学校に配置したり、教員に対する研修等を通して発達障害の子ども達に対する知識、理解を深めてほしいとの要望がある。
- 障害をもつ子の受け入れサポートを手厚くしてほしい。
- 小学校に上がっても引き続き、くれよん教室のような発達障害の専門の機関で、定期的に本人を混じえて相談できると心強い。
- 障害のある人が過ごせる場所も少なく、障害のある子の親が仕事を辞めたり、仕事時間を制限したりするという話をよく聞くので、子育て、就労両面での十分な支援が必要だと思う。

行政としての捉え方

- 障害に対する専門的な支援を行うためには、専門職の配置が求められる。
- 障害のある子への適切な対応については、スムーズに障がい福祉サービスにつなぎ、障がい福祉サービスの中で対応すべきである。障がい福祉サービスとして不足する部分、行き届いていない部分を明確にして対応する必要がある。
- 一般的に気掛かり児童が増えていると言われるが、具体的にどのような事象をもって気掛かり児童というのかを検証し、適切に対応する必要がある。
- 大人の考える時間の中で、大人の考える進め方から逸脱することで気掛かりというのなら、大人の考え方を改めるべきであるので、こどもに関わる大人の正しい知識の習得とそれぞれのこどもの背景に寄り添った対応が必要になる。

行政として考える課題

- 特別な配慮を必要とするこどもに対する、専門的な支援を行う必要がある。
- 障がいのあるこどものライフステージに沿って、障がい福祉、保健、保育、教育、就労支援などの分野で連携を図り、切れ目のない支援を提供する必要がある。
- 障がいのあるこどもが、円滑に通所支援などを受けられるよう、相談支援体制の充実を図る必要がある。
- 障がいのあるこどもの通所支援のニーズが増加している中、身近な場所で必要な支援が受けられる体制を整える必要がある。
- こどもと関わりを持つ機関が気掛かりなこどもへの対応を学び、それぞれのこどもの背景に寄り添った対応を行う必要がある。

施策の方向性

(2) ひとり親に対する支援

ニーズ（現状）

- フルタイム、正社員で働きたいが、ひとり親であるためまわりの協力もあまりなく、正社員として働けない。
- 母子・父子家庭自立支援員を配置し、相談支援体制を確保している。

行政としての捉え方

- ひとり親が故に子育てと仕事をひとりで行わなければならない状態であるが、ひとり親特有の子育て支援サービスを提供するより、子育て支援サービスの利用者負担を軽減し、サービスを利用しやすい環境を整えることが重要である。
- ひとり親に対しては、これまで国の給付金や児童扶養手当の給付に加え、学習支援や習い事支援など充実した経済的支援がなされている。

行政として考える課題

- ひとり親の困り感や悩みごとに対応するため、母子・父子家庭自立支援員の存在をしっかりと発信し、きめ細かな相談対応を行う必要がある。
- 子育て支援サービスに係る負担金の軽減策についても、現行制度を維持する必要がある。
- ひとり親家庭に対する経済的支援については、現行の制度を維持する必要がある。

施策の方向性

(3) 生活困窮者(世帯)に対する支援

ニーズ（現状）

- 非課税世帯に対しては、国の子育て支援特別給付金を支給するなど、昨今の物価高騰に対する経済的支援を行ってきた。
- 非課税世帯に対しては、サービスの負担金の免除などにも対応している。

行政としての捉え方

- 非課税世帯に対しては、これまで国の給付金に加え、習い事支援、子育て支援サービスの負担金免許など充実した経済的支援がなされている。
- 非課税世帯に対する、経済的支援以外に求められ支援を十分に検証する。

行政として考える課題

- 非課税世帯など、生活困窮者に対しては、しっかりと必要な支援が受けられるようなつなぎを行う必要がある。
- 非課税世帯に対する経済的支援については、現行の制度を維持する必要がある。
- 子育て支援サービスに係る負担金の軽減策についても、現行制度を維持する必要がある。